

なし管理情報No. 8

令和8年9月28日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター



1. 生育概況

(1) 中生品種の収穫時期

- 「豊水」は、9月1日頃から収穫を始めた園地が多く、盛期は9月5日頃で平年より4日早かった。

(2) 中生品種の果実品質等

- 「豊水」の糖度は平年より高く、みつ症の発生は平年に比べ多かった。

2. 病虫害防除

<発生状況>

- 黒星病：罹病果実は平年並、前年より多い。
- ナシヒメシンクイ：トラップへの成虫の誘殺数は平年より多い。果実被害は、幸水や中生品種で少～中発生。

<防除のポイント>

- 黒星病対策：秋型病斑葉や芽基部への感染は翌年の一次伝染源となるため、樹上に病葉が残っている間は、約2週間間隔でオキシラン水和剤（500倍、収穫21日前まで、9回以内）を散布し、越冬菌密度を減らす。多発園では、定期防除に加え、下記の特別散布を実施する。

<薬剤防除>

回数	散布時期	散布薬剤と希釈倍率		10a当たり 散布量	対象病虫害	実施日 (自己記入)
15	10/10～12日頃 (収穫終了後速やかに)	オキシラン水和剤(※) 展着剤 マイリノール	500倍 20,000倍	350ℓ	黒星病	
		収穫21日前まで				
16	10/24～27日頃 (前回散布の14日後頃)	オキシラン水和剤(※) 展着剤 マイリノール	500倍 20,000倍	350ℓ	黒星病	
		収穫21日前まで				
特 散	11/7～9日頃 (前回散布の14日後頃) 黒星病の発生が多い場合	オキシラン水和剤(※) 展着剤 マイリノール	500倍 20,000倍	350ℓ	黒星病	
		収穫21日前まで				
特 散	11/21～23日頃 (前回散布の14日後頃) 黒星病の発生が多く、葉が 2割以上残っている場合	オキシラン水和剤 展着剤 マイリノール	500倍 20,000倍	350ℓ	黒星病	
		収穫21日目まで				

※収穫中の品種がある場合は、15、16回目の防除をオーソサイド水和剤80（1,000倍、収穫3日前まで、9回以内）に変更する。オキシラン水和剤は、収穫21日前までであることに注意する。

- 農薬散布時は、近隣に告知するとともに、周辺の他の作物に薬剤が飛散しないように十分注意する。
- また、使用前に農薬ラベルの登録内容をよく確認して使用する。

3. 今後の管理

(1) 肥培管理

【礼肥】

- ・ 翌年の花芽の充実と貯蔵養分の蓄積を促進するため、礼肥として、収穫終期に硫安で10～20kg/10a、収穫終了直後に硫安で10kg/10aを施用する。

【土壌改良】

- ・ pH5.5～6.5を目標に、石灰質肥料（苦土石灰、マグフミン等）で調整する。石灰質肥料は、基肥の効果が低下しないよう基肥の14日以上前に施用する。
- ・ 土壌中の腐植含量を増やし、通気性、保水性の高い土壌に改良するため、ホールディガーを用いた局所施用をする等、有機物資材（堆肥等）を1～2t/10a施用する。

※各資材の施用量は、これまでの施用実績・樹勢に応じて加減してください。

【基肥】

- ・ 有機質肥料（ミドリトップ等）を10～12月上旬に、窒素成分で12kg/10a程度施用する。

(2) 落葉処理（黒星病対策）

- ・ 黒星病は、落葉上で越冬した胞子が春先に飛散することにより感染が拡大する。そのため翌年の感染源を減らすために落葉処理を実施する。
- ・ 本年は黒星病の発生が前年より多かったため、落葉処理（乗用草刈機による落葉の粉碎、落葉のかき集め・園地外への持ち出し）を必ず1回以上実施する。
- 実施時期：11月～翌年3月中旬まで（胞子が飛散する前までに実施）
- 実施方法：別添「ナシ黒星病の落葉処理マニュアル」、補足資料参照

【精度の高い落葉処理のポイント】

園地や園地周囲に、原形をとどめた落葉を残さない

- ・ 落葉がある位置を把握：園地内部、園地周囲（ネット際や水路内等）を確認する。
- ・ 落葉処理しやすい下準備：草刈りの実施、ネットを上げる、幹元の落葉を通路に出す。
- ・ 適正な粉碎と精度の確認：粉碎処理の場合は、葉が3cm以下となるまで、何度も粉碎する。
園地外へ持ち出す場合は園地に残った落葉が無いか確認する。

＜お知らせ＞

- ・ 今年度の管理情報は、今号が最後です（号外を除く）。
- ・ 黒星病の秋型病斑葉調査を10月中旬に行う予定です。